

高野尾・農地・水を守る会

(津市高野尾町)

津市高野尾町は、関宿（亀山市）から江戸橋（津市）に至る旧伊勢別街道の中ほどに位置する、花木栽培を中心に水稻、野菜、みかん、酪農等の農業が盛んな地域である。高野尾・農地・水を守る会は、高野尾地区の39人の組織である。高野尾地域には、事業者向けの花木栽培施設およびそれらを一般消費者むけに販売する施設が点在し、伊勢自動車道の芸濃インターチェンジに近いこともあり、自家用車を利用した県外からの来訪者も少なくない。また、平成28年度夏オープン予定の農業と食をテーマとする集客施設設置計画が進んでおり、今後さらなる来訪者増加が見込まれる。同会では、その開業に合わせて地域の材料と食文化を生かした商品づくりに取り組むこととした。これにより、耕作放棄地の抑制および地域資源の活用を実現し、地域活性化につなげる事が期待される。



実践支援の取り組み

① 課題整理と取り組み方針確定のためのミーティング

地域内で進行中の大規模な農業と食をテーマとする集客施設の説明会などを通じて地域資源の活用に対する意欲が盛り上がり、その集客施設に出店して地域の素材を生かした、地域の伝統食のとりめし、味ごはん、おこわなどの販売を検討していくこととなった。

② 運営に関する研修、調理指導

地域の伝統食の他に、商品化を検討している味付けご飯類の調理について指導してくれる専門家を選定し、研修会を開催した。また、先行事例をじかに見て勉強材料とするため、多気町の「せいわの里」を訪問し、運営責任者から詳しい説明を受けた。調理研修は、三重県立久居農林高校生活デザイン学科の宮原伸代教諭の指導を得ておこなった。

③ 蒸し器、大型炊飯器等の導入、調理実習

商品開発は、三重大学生物学部付農場の調理室を借用しておこなった。蒸し器、大型炊飯器その他の機器類を導入した。



蒸し器でおこわの試作



専門家を招き研修会



大型炊飯器で味ごはんづくり

これからの取り組み予定

高野尾地区で進んでいるプロジェクトが、平成28年夏にオープンすることから、その時期に合わせた商品開発、スタッフの育成などに引き続き計画的に取り組んでいく。また、原材料の栽培および加工に関わる若手人材の参加拡大、人材育成も今後取り組むべき重要な課題である。